

学校不適応の子どもの支援の在り方 ～不登校対策推進校『支援教室』の効果的な運営を通して～

千葉県子どもと親のサポートセンター

支援事業部

指導主事 久保田 哲也

1 主題設定の理由

本県の公立小・中学校（義務教育学校を含む，以下同じ）における不登校児童生徒数は，平成 23 年度から減少傾向がみられたものの，平成 25 年度から増加傾向に転じ，その傾向が継続している。（千葉県教育委員会（平成 29 年 10 月）「平成 28 年度『児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』の概要」より）不登校児童生徒への支援は本県が取り組むべき喫緊の教育課題の一つである。

このような現状の下，本県では不登校児童生徒の支援として様々な取組が行われている。県の実施している不登校支援の取組の一つに，「不登校対策推進校」の指定がある。この取組は，県内公立小・中学校 125 校（平成 29 年度：中学校 123 校，小学校 2 校）を「不登校対策推進校」（以下，推進校）に指定し，指定された推進校内に「不登校児童生徒支援教室」（以下，支援教室）を開設するものである。推進校に指定された学校には「児童生徒支援（不登校）加配教員」が配置され，不登校及び不登校傾向にある児童生徒を対象に支援に当たっている。

子どもと親のサポートセンター（以下，当センター）支援事業部では，様々な不登校対策のための事業を通じて学校不適応の児童生徒への支援を行ってきた。一方で，推進校については，断片的な情報はあっても，正確に把握してこなかったのが実情である。

そこで，推進校の実態調査を行い，課題を把握し，学校不適応の児童生徒への当センターの支援の在り方を探るため，研究主題を設定した。

2 研究目的

これまでの当センターの調査研究事業を踏まえ，詳細な調査は未実施であった推進校の支援教室に焦点を絞り調査研究を実施する。推進校の支援教室の現状と課題を把握し，課題解決に効果的と考えられる当センターの支援事業を設定する。設定した支援事業についての成果を広めることで，学校不適応の児童生徒支援の一助とすることを研究目的とする。

3 研究計画

（1）平成 28 年度【研究 1】

ア 全推進校（平成 28 年度指定，125 校）及び市町村等教育委員会を対象に質問紙による実態調査を行う。

イ 質問紙調査から，効果的と考えられる取組を行っている推進校を抽出し，聞き取り調査を実施する。

ウ 調査結果から支援教室の効果的な運営に必要な視点と取組を整理し，推進校の課題解決に有効と考えられる支援事業を設定する。

(2) 平成 29 年度

ア 設定した支援事業の実施と効果を検証する。【研究 2】

イ 研究報告書を作成し，当センター Web ページ上に公開する。

4 研究概要

(1) 【研究 1】

ア 全推進校及び市町村等教育委員会対象質問紙調査

(ア) 全推進校対象の質問紙調査の結果（概要）

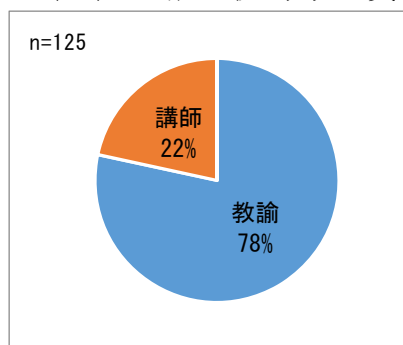


図 1 支援教室担当者の職名

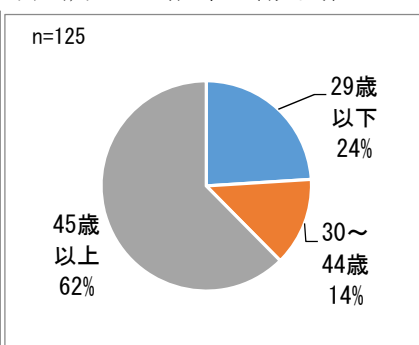


図 2 支援教室担当者の年齢

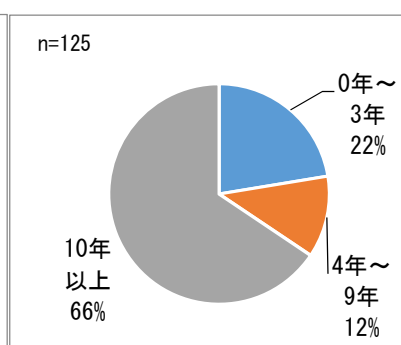


図 3 支援教室担当者の教職経験年数

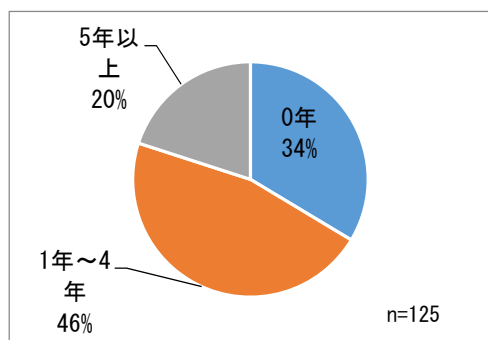


図 4 支援教室担当者の当該校勤務年数

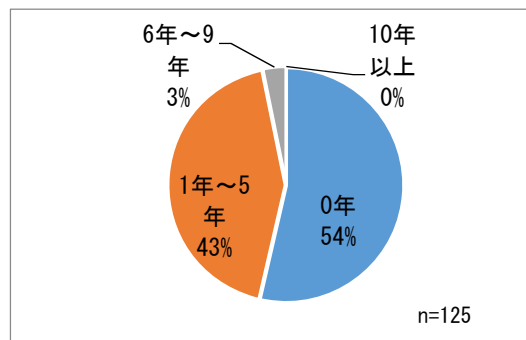


図 5 担当者の支援教室経験年数

支援教室担当者は，教職経験が 10 年以上または 3 年以下を合わせると 8 割以上である（図 3）。支援教室担当者に中堅層が少ないことが分かる。現任校での勤務経験については 5 年未満が 8 割を超えている（図 4）。支援教室の経験年数が 0 年という担当が半数以上であり，5 年未満と合わせると約 97%となる（図 5）。支援教室担当者に運営についての知識・経験等が不足している実態が窺える。

支援教室を学校で組織として支える仕組みがあるかについての質問では，全体で約 25%の学校で組織はない，あるいは機能していないとの回答を得た（図 6）。特に組織化が十分になされていない支援教室では，経験の少ない担当者が学校の組織としての支援を受けられずに，支援教室運営に当たっていることが考えられる。また，担当に十分な経験があっても，支援教室が学校の中で孤立化することも予想される。支援教室を組織として支えるためには，管理職の理解と協力が不可欠である。支援教室の運営について考える際に，管理職の果たす役割についても考慮する必要がある。

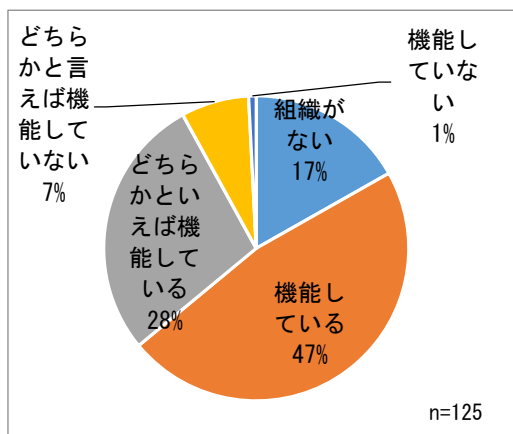


図6 校内の支援教室の組織について

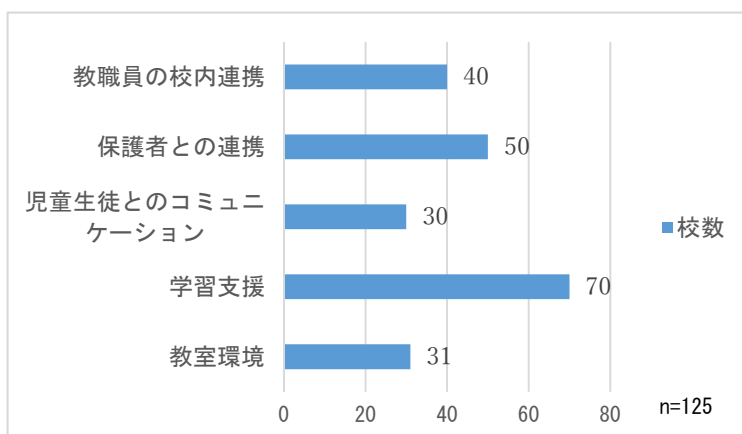


図7 支援教室の運営で「特に問題となること」(複数回答)

支援教室運営では、「学習支援」に問題を抱えている支援教室が多く、「保護者との連携」、「教職員の校内連携」と続く(図7)。担当者への支援を考える際には、学習支援の在り方や保護者及び教職員との連携について指導・助言をすることが有効であると考えられる。また、当センターの支援事業を活用することが、支援教室の効果的な運営に繋がっていくと思われる。

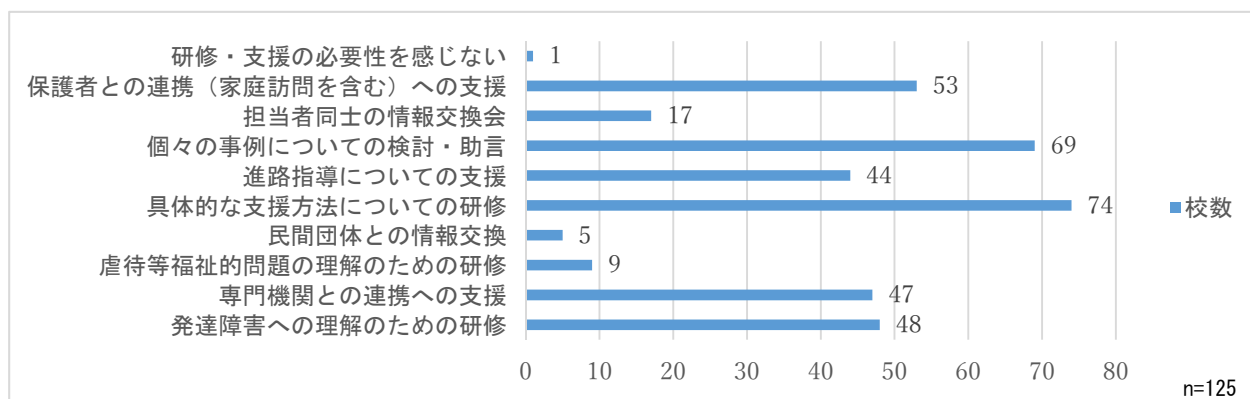


図8 必要とする支援や研修(複数回答)

必要とする支援や研修については、個別の支援方法や事例検討の希望が多かった(図8)。担当者のニーズに合った研修を実施する必要があると考えられる。
(イ) 市町村等教育委員会対象の質問紙調査の結果(概要)

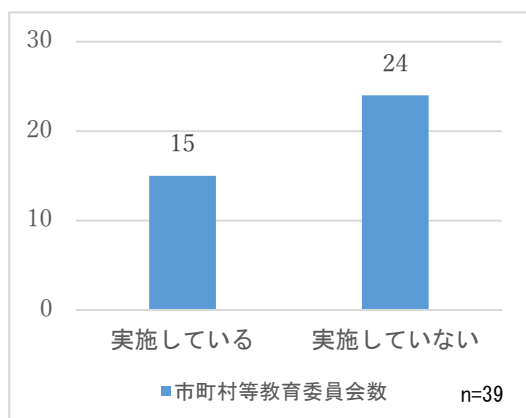


図9 支援教室担当者への研修

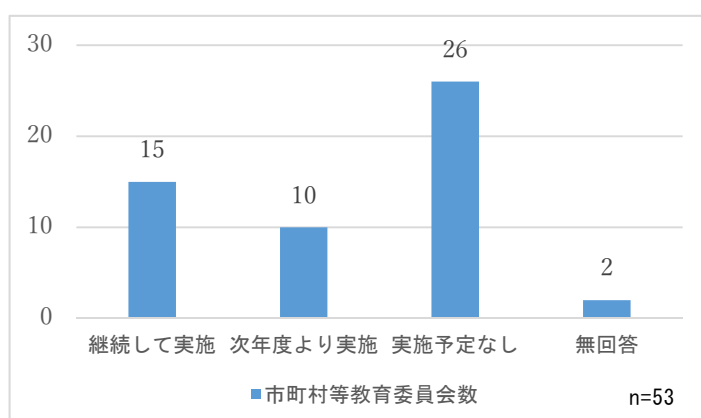


図10 次年度以降の支援教室担当者への研修の実施

※市町村等内に推進校が「ある」と答えた市町村等教育委員会(39)対象

推進校のある市町村等教育委員会で支援教室担当者への研修・会議（以下、研修・会議）を実施しているのは約４割であり（図９）、市町村等の単位でも研修・会議が十分に実施されているとは言い難い。「研修・会議」を「今後も実施する予定がない」と約５割の市町村教育委員会が回答している（図１０）。開催をしない理由として、学校訪問による指導助言や、長欠担当者会議の存在を挙げている。また、推進校の指定は単年度であるため、指定を受ける小・中学校が不明確な状況で市町村等教育委員会が研修を計画・実施するのは困難である。

以上の考察から、推進校への当センターが果たすべき役割は、支援教室担当者への研修の実施と、個別の事例への対応となる。

イ 質問紙調査の結果に基づいた聞き取り調査

質問紙調査の結果（図７）から、多くの支援教室で「学習支援」，「保護者との連携」，「教職員の校内連携」に問題を抱えていることが分かった。聞き取り調査を実施するにあたっては、それらの項目で問題解決に効果的な取組をしていると考えられる回答をした推進校に着目した。また、各教育事務所担当指導主事及び訪問相談担当教員への聞き取りを行い参考とした。両者を合わせて、「学習支援」，「保護者との連携」，「教職員の校内連携」，「その他（教室環境や外部との連携等で特徴的なもの）」の４つの視点から聞き取り調査校を選定して調査を実施した。

ウ 支援教室の効果的な運営に必要な視点と取組の整理、及び推進校の課題解決に有効と考えられる支援事業の設定

聞き取り調査から、支援教室の効果的な運営に必要な取組（主なもの）を以下のように視点ごとに整理した。（※○は視点）

○学習支援 ・時間割を設定し、時間割に沿って活動 ・授業者と児童生徒が顔と顔を合わせた教科指導・学習指導の実施 ・できる限りの評価の実施 ・評価規準等を全教職員で共通理解の下、作成	○保護者との連携 ・事前の合意形成の重視 ・保護者への「支援」という視点（SCと保護者の面談の設定、支援教室通級者の保護者対象懇談会の実施等） ・組織で保護者を支援（SCの活用等）
○教職員の校内連携 ・コーディネートを行うキーパーソンの存在（必ずしも支援教室担当者である必要はない） ・校内支援体制の構築による支援教室の孤立化防止 ・情報の「見える化」，「共有化」への工夫（ICTの活用）	○その他 ・「見立て」の重視 ・児童生徒が安心できる環境を確保 ・支援教室利用の明確なルールの設定 ・原籍学級とのつながりの維持 ・学校や学校に関係する資源を有効に活用（教職員及び他の生徒、支援教室卒業生） ・教育支援センター等の外部との連携 ・管理職の支援 ・市町村等教育委員会の支援

当センターの責務を考えた時に、視察によって得られた知見等を他の推進校に広めていくことは重要な役割である。

以上の考察から、支援教室の課題解決に有効と考えられる支援事業を設定した。

(ア)『スクールアドバイザー事業^{※1}』を活用した事例検討会の実施」

質問紙調査から、支援教室担当者への研修が実施されていない、あるいはされにくいという実態が明らかになった。ただし、学校現場の実情を鑑みると訪問支援（アウトリーチ）型の研修が望ましい。また、推進校では主に個別の事例への助言等を求めていることも分かった。個別の事例への対応では事例検討会の実施が有効であると考えられる。更に事例検討会をただの情報交換会に終わらせないための工夫も必要である。そのためにはスーパーバイザー^{※2}による助言と指導が求められる。

これらを総合し、当センターの支援事業の一つである「スクールアドバイザー事業」（以下、S A事業）を活用した事例検討会を実施することとした。

(イ)『「地区教育相談ネットワーク連絡協議会^{※3}」への推進校管理職の参加」

推進校の視察から、支援教室の効果的な運営には管理職の理解と協力が必要であることが分かった。推進校は県内全域にまたがるため、参加しやすさや利便性、地域の実情に合った内容を提供できること等を考慮する必要がある。

そこで、当センターの支援事業である「地区教育相談ネットワーク連絡協議会」（以下、地区NW）に、推進校の管理職の参加を可能にすることとした。

(ウ)「支援プログラム（『支援教室運営の手引き（試案）』）」の作成

質問紙調査から支援教室担当者の多くが、初めて支援教室を担当し、手探りの状態で運営をしている実態が窺えた。運営の指針になるものがあれば、担当者にとって大きな支援となるだろう。当センターの支援事業には「支援プログラムの提供」がある。聞き取り調査等で得た支援教室の効果的な運営についてまとめた「支援教室運営の手引き（試案）」を支援プログラムとして作成し、当センターのホームページ上に公開することで、支援教室の効果的な運営につなげたいと考えた。

※1 学校の生徒指導や教育相談の充実に資するため、大学教授・医師・臨床心理士等の専門家を、講師として学校に派遣することにより課題解決を図る事業。

※2 スーパーバイザーとは、語義的には監督者、管理者、監修者という意味である。心理臨床の分野においては、臨床家がその専門性の維持・向上のためにケース（事例）の進め方などの検討に関して受ける指導（スーパービジョン）における指導者を、スーパーバイザーという。

※3 教育相談及び不登校児童生徒の支援に関わる組織や担当者の効果的なネットワークづくりを推進することを目的として実施されている。全体・教育事務所ごとに年間2回開催されている。

(2)【研究2】

ア S A事業を活用した事例検討会の実施：研究協力校 X中学校

X中学校は推進校の指定を受けているが、支援教室に通級している生徒がおらず、支援教室が十分に機能しているとは言えない状態である。しかし、管理職や支援教室担当者からは、支援教室を活用し、学校不適応の生徒の支援に役立てたい、との声を聴くことができた。そこで、「事例検討会」を実施することで、支援教室の効果的な運営へとつなげることを考えた。

事例の報告の際には、当センターの「見立てシート」を活用するよう助言し、初めての事例検討会参加者にも事例検討会の焦点が明確になるようにした。

表 1 事例検討会の内容

第1回事例検討会（7月） 参加者X中学校教職員20名	
事例	昨年度から不登校が続いている生徒の事例（提供者 担任）
形態	事例検討・自由討論セット方式 （参加者がグループごとに解決策を出し合い、スーパーバイザーから指導・助言を受けた）
スーパーバイザー	大学教授等
第2回事例検討会（11月） 参加者X中学校教職員20名	
事例	人間関係のトラブルから不適応を起こしている生徒の事例（提供者 担任）
形態	事例検討・自由討論セット方式 （参加者がグループごとに解決策を出し合い、スーパーバイザーから指導・助言を受けた）
スーパーバイザー	大学教授等

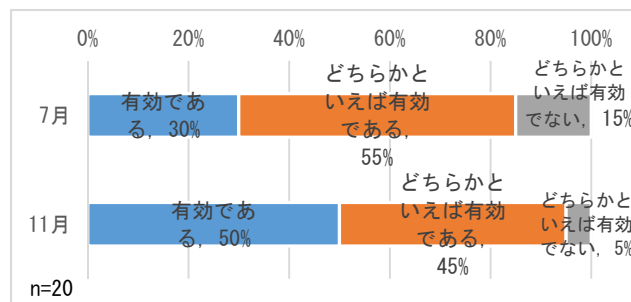


図 11 自校の支援教室は不登校支援にとって有効か

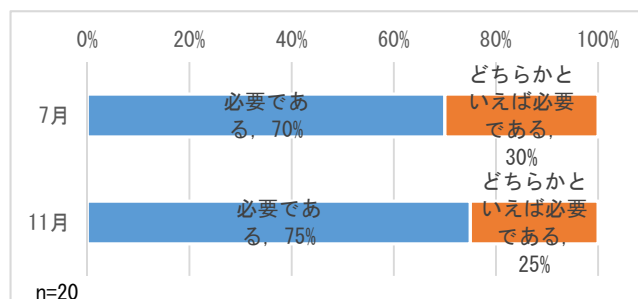


図 12 今後の事例検討会について

事例検討会は2回実施し（表1）、教職員の意識を調査することでS A事業を活用した事例検討会の効果を検証した。

事例検討会を実施した結果、支援教室の必要性についての理解が増加している（図11）。事例検討会が教職員の支援教室についての意識を高めたことが窺える。また、事例検討会の必要性についても、教職員は7月・11月ともに強く感じており（図12）、事例検討会が教職員にとって満足度が高く、意義のあるものになったことが分かる。

イ 「『地区教育相談ネットワーク連絡協議会』への推進校管理職の参加」

表 2 地区NW（前期）への参加者（推進校のみ）

職名	管理職	教諭	講師	計
人数	7	40	4	51

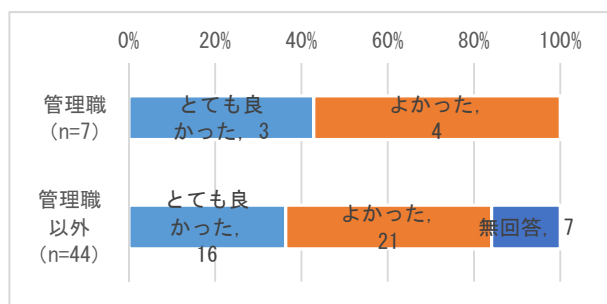


図 13 地区NW（前期）の感想

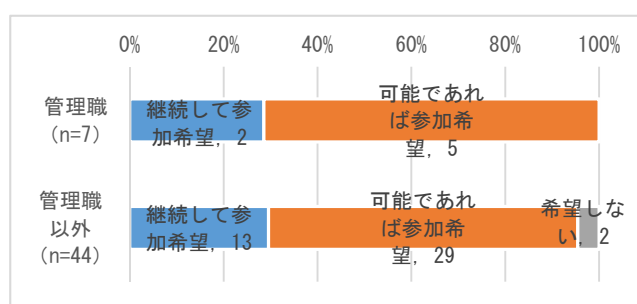


図 14 今後の地区NW（前期）への参加希望

参加した推進校の管理職は地区NWに高い満足度を示しており（図13）、地区NWが一定の役割を果たしていることが確認できた。今後の参加希望からその意欲や問題意識の高さも窺うことができた（図14）。しかし、管理職の参加が少ないことから、今後いかに管理職の参加を促していくかが課題である。

ウ 「支援プログラム（『支援教室運営の手引き（試案）』）の作成」

（ア）構成（図 15）

聞き取り調査校で共通して見られた、支援教室の課題解決のための取組等を整理し、支援教室運営の際の指針となる「支援教室運営の手引き（試案）」（以下、手引き）を支援プログラムとして作成した。

（イ）活用の方法

手引きは、支援教室担当者や教育相談担当者が自校の実態にあったものにカスタマイズして、支援教室の運営に活用することができる。手引きには、運営担当者が教室環境を整えたり、児童生徒の記録用紙を作成したりする際の参考となる例も掲載されている。また、事例検討会に利用できる資料や情報についても掲載してあるため、事例検討会の実施を考えた際にも活用することが可能である。推進校の指定を受けていなくても、別室登校をしている児童生徒がいる学校にとって、別室の支援体制の在り方等を考える際にも活用できる。

この手引きを活用することで、支援教室や別室が効果的に運営され、学校不適応児童生徒の支援の一助となることを期待したい。

「支援教室運営の手引き（試案）」	
1	運営の基本方針
2	支援教室担当者の役割
3	学級担任の役割
4	支援教室で授業を行う教職員の役割
5	原籍学級の教科担当者の役割
6	全教職員の役割
7	評価について
8	入級後の児童生徒の動き
9	支援教室のきまり
10	資料編
	・支援教室の環境整備
	・「児童生徒理解・教育支援シート（試案）」
	・「見立てシート」
	・「子どもを理解するための気になる児童生徒チェックシート」
	・「記録ノート（例）」

図 15 支援教室運営の手引き（試案）の構成

5 総合考察

研究 1 では、質問紙調査や聞き取り調査によって推進校の実態調査を行い、支援教室を効果的に運営するために必要と考えられる視点を整理した。

研究 2 では、推進校の課題解決に有効と考えられる支援事業を設定し、その効果を検証した。

以上の結果から、支援教室を効果的に運営するために有効な取組を以下の 3 つにまとめた。

（1）事例検討会の活用

支援教室に通級する児童生徒の問題解決には、事例検討会の活用が有効である。事例検討会を充実したものにするためには、スーパーバイザーの存在も重要である。

また、事例検討会の実施は教育相談についてはもちろんのこと、それ以外の面でも教職員の校内連携を促進するという効果もある。

（2）管理職及び担当者の研修の必要性

学校不適応の児童生徒への対応を、担当者の資質に頼るだけでは継続して安定した支援が難しくなる。そのためには実際に支援に当たる担当者が、不登校や不適応児童生徒の心理特性等を学ぶ必要がある。また、支援教室の位置付けや学校教育相談体制の構築については、管理職の理解と協力が必要である。両者への研修や働き掛けが重要である。

(3) 支援教室運営の手引き（試案）の活用

今回の研究の成果として作成した手引きを活用し、各学校の支援教室の運営をより効果的にしていくことが望まれる。

6 研究のまとめ

(1) 成果

- ・これまで詳細な調査を実施してこなかった不登校対策推進校について調査することで、推進校の実態について把握することができた。また、推進校の課題解決に特長的な取組をしている推進校の調査から、効果的な運営についての取組を整理することができた。
- ・不登校対策推進校は、学校不適應の児童生徒に居場所と学習の機会を提供し、社会的自立へと導く大きな役割を果たしていることを再確認することができた。
- ・推進校の課題解決のために、当センターで実施している支援事業の工夫とその活用が有効であることが確認できた。
- ・推進校の聞き取り調査から明らかになった、支援教室の効果的な運営のために必要な共通項目を整理し、支援プログラム「支援教室運営の手引き（試案）」として作成することができた。

(2) 課題

- ・推進校の実態把握から、当センターの事業の多くが、その課題解決に有効であるとの実感を得た。だが、その活用が少ない実態から、当センターの事業周知の不足を感じた。今回の研究成果を各校に確実に伝えていくこと、当センターの事業の周知の仕方について改めて工夫が必要であると考えられる。
- ・支援教室運営の手引きは、不登校対策推進校にとって有効と考えられるが、それ以外に別室登校をする児童生徒のいる学校にも有用であることを念頭に作成した。手引きが不登校対策推進校だけでなく、別室登校を実施している全ての学校で活用されるよう促していく必要がある。
- ・今回の研究は支援教室の運営面に焦点を絞った。多くの質問紙調査や聞き取り調査から平均値や一般的傾向を分析し、支援教室の実態や役割について整理することができた。だが、実際に支援教室に通う個々の児童生徒の背景をくみ取った支援の在り方についての研究には至っていない。今後は事例研究という方法で、個から一般性を描き出す研究が求められる。
- ・今回の調査を進める中で、支援教室以外に別室登校をしている児童生徒が確認された。別室登校をしている児童生徒の正確な実態把握と、支援の在り方についての検討は今後の課題である。

本調査研究を通して、貴重な実践等を知ることができた。これらを当センターの支援事業等に活かし、学校不適應の児童生徒や学校への支援を更に充実させていきたい。